

おわりに



本書をお読みくださり、誠にありがとうございました。皆さまが、児童生徒や保護者への教育相談・カウンセリングの場面ではもちろんのこと、日常的なかかわりにおいても、さらにはケース会議においても、「解決志向」を活用することに希望を見いだしていただけたとすれば、無上の喜びです。

解決志向は、被援助者と援助者が共に楽に、幸せになる優れた対人援助のパラダイムであると確信しています。皆さまの粘り強く、意欲的な取り組みと工夫によって、学校現場のさまざまな場で解決志向が普及していくことを心から願っています。本書がご縁で出会うことができた皆さま、解決志向の文化を共に育てていきましょう。

教師は、子どもたちの成長を長い目で見守ることができる、大変やり甲斐のある、尊い職業です。その一方で、いじめ、不登校、乱暴な子ども、荒れる学級、難しい保護者など、さまざまな課題への対応に日々追われ、大変厳しい状況に直面されている先生方も少なくないのではないのでしょうか。文部科学省の掲げる「チーム学校」での指導體制を内実のあるものにするためにも、解決志向が“個人のスキル”に留まるのではなく、“学校の文化”として定着していくことに意味があると考えています。本書がその一助になるのであれば、望外の喜びです。

*

最後に、ほんの森出版の小林敏史社長、金原優さんに、深く感謝いたします。本書は『月刊学校教育相談』での連載（2024年4月号～2025年3月号）をベースに新たなPartを加筆し、再構成したものです。連載では、解決志向によるケース会議を教育相談にかかわるすべての先生方、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーの方々に伝えたいという熱い想いを共有しながら、いつも温かいコメントをいただきました。普段は締め切りを守ることが大変苦手な性分の私に、毎月の締め切りに一度も遅れることなく脱稿・入稿を果たすというミラクルを引き起こしてくださいました。

また、私の解決志向のメンターであるインスーとスティーブに、WOWW研究会とソリューションランドの解決志向の仲間に、ご縁のあった児童生徒、保護者、教職員の皆さまに、さらに、娘・千英^{ちほな}と天国の妻・由弥^{ゆみ}に、そして、私の小学校3、4年生時の恩師の安田春政先生に、この場を借りて深く感謝申し上げます。

研究室から大雪山旭岳の純白に輝く冠雪を眺めながら

2026年1月

著者 久能弘道